

Sr. M. Kobayashi
R. Galvão Bueno, S.
S. Paulo

Caixa, 375 Telephone 2-3926

リベルダード・バウロ市

発行所 日伯社

本紙定價一円金銀

外國郵稅共金合銅

〔廣告料〕

十四字、三面二元レース増

一面、三面二元

行六百百元

付

現地支局

支局

所謂オズワルド、アラニヤ案の當のオズワルド大使の駐在が問題となつた。ハルゼーは財界人の是非難かんと欲するところでなければならぬが、ハーバード大学のアリオ・アソシエイトに答えたところを綜合すれば左の如くである。
大使は先づアルツール・コステラム相が自ら度満との報に驚いたと云ひ、爲替調整の爲にアメリカで起債するとして、
（華府十日）米伯通商條約
締結に關する交渉は依然終結に至らないが、下段最も難點は爲替問題の外アメリカ農產物主として小麦の輸入税率に關するもので、アメリカ農產物の消費市場擴張に苦慮するル・大統領の意を體するウヰルス交渉委員が無税を主張に對し、オズワルド大使は隣邦アルゼンチンとの關係を考慮して頑強にこれを拒みつゝある實情に在るがソーザコストア藏相の着米によつて或は急轉直下解決を見るに至るやも知れぬ

外債支拂停止
以ての外だ

外債問題解決のため 藏相歐米へ出張

アマゾナス
バラニオン
ピアウイ
セアラ
北アラ
パライバ
ペルナムブコ
アラゴアス
セルジツベ
バイア
エスピリトオ
リオ
聯邦直轄區
パラ
聖カタリナ
南大河
マトグロソ
即ち州別にすれば南リオグランデが最大華客で、次いで直轄區、バイア、ペルナムブランコ、聖カタリナといふ順序である
以上は移出であるが移入もまた
されば昨年度全體では大約四十七万八千コントに達し、昨年度の四十四万四百六十五コントより更に一段の躍進を示す譯となる。今九ヶ月間の州別移出高を表記すれば左の如く
三、表六
二〇、三九
三、開拓
一、六九
五、四六
五、四六
七、六六
四、三七
八、九九
四、六八
四、三八
七、六四
三、九九
一、九九

昨年度沿岸貿易は未だ精細なる統計の據るべきものがない既に発表された九ヶ月間の數字によれば未曾有の盛況に達するものと思はれる

即ち昨年九ヶ月間の聖州移出は三十五万八千九百八十トンで從來最高と云はれた一昨年同期の三十三万五千八十六トンに比し更に二万三千トンの増加である、若も残り

聖州沿岸 最大華

これはわざわざより客室に用意するよりはるゝ樂觀的、オズワルド案を改更し對外支拂額を減する必要ありや否やに就いては伯國は爲替引上げの要はあるが對外支拂額を減する必要を認めない、所見は簡單

伯國の外債支拂還済問題は英米財界に非常な悪影響をあたへ引受財團により政府圓に矢張早やの抗議あり、これを放置する結果は將來伯國の財政局由々しき問題を惹起する虞れ十分認められるに至つたので、聯邦當局はこれを重視し種々對策協議中であつたが去八日ゼクリオ大統領始め藏相、伯銀總裁、爲替局長等關係當局並にサンバウロ、ミナス、リオクランデ等雄州執政官を網羅する最後の會合において、アメリカ及び歐洲關係國に對する財政經濟並に通商關係を調整するためアルツール・コスタ蔵相を首班とする伯國政府代表を派遣し親しく彼地當局と膝を交へて談合し善後措置を講ぜしめることとなつた

出張

万コン	て州沿	り價格は左の通りである
るもの	の工業	九三〇年
多量の	九三一年	四八〇〇
り輸入	九三三年	一七〇〇
の工業	九三四年	一五〇〇
九三四年	九三四年	一四〇〇
輸出農産物の第二位に在る棉花	九三四年	一三〇〇
は九三三年度において州輸出表	九三四年	一二〇〇
中やうやく二千百九十五コント	九三四年	一一〇〇
といふ數字が現はれてゐたゞけ	九三四年	一〇〇〇
であったが、九三四年度は上九	九三四年	九〇〇
ヶ月に於て既に約十六万コント	九三四年	八〇〇
に達し總輸出額の約一割を占め	九三四年	七〇〇
たのであるが、左の如く大農	九三四年	六〇〇
産物の輸出額を示す	九三四年	五〇〇
珈琲	一、二五、五五	四〇〇

トの出	九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九	外貿易に年上九九ヶ月聖州海	去九三四
トの出	九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九	外貿易に年上九九ヶ月聖州海	去九三四
トの出	九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九	外貿易に年上九九ヶ月聖州海	去九三四
トの出	九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九	外貿易に年上九九ヶ月聖州海	去九三四
トの出	九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九	外貿易に年上九九ヶ月聖州海	去九三四

好況時代には全體の六十五パーセント迄はソロカバナ線の生産額一億五千ローブであります。一九三三年の棉花大農産年度でも猶ソロカバナ地方は絶對多數を誇つてゐたが、昨年度産額一千五百ローブに及んで同地はそなへて四十五回パーセントを占むる。すきなくなつた、勿論數量としては未會有の生産であるが、百一セントティヂから云へば昔時より

ば決して世界一流養鶏國の生業にも劣らぬその品質によりその前途は洋々たるものがあるとされてゐる、今州局統計により州養鶏業の發達を見るところ一九三一年桑樹栽培數六百九十九万八千六百二十六本、收穫量九万八千六百二十六本、收穫量二十四万一千二百廷のものが翌三年には一躍桑樹一千二百万三千四百九十六本、收穫量三十六万七千二百十八廷、三年には一千三百三十九万五千六十七本の桑樹、四十七万七千百七十九廷の產繭と躍進を示すのである。

ラ・ンジヤ
冷凍肉
バーナー
棉花は主として英國に輸出され
爲に同國は九三三年度に第五位
の輸入國であつたのが九三四年
度にはアメリカ、ドイツに次ぐ
第三位となつてゐる

見てゐる
而して右二十三万四千コント中
海外輸出は冷肉、乾肉、罐詰肉
等合して三万二千コント即ち總
生産額の七割三分が州内消費に
充てられてゐる譯である

州内牛豚
屠殺數　州農務省發表に
よれば聖州内牛
豚の屠殺數は遅
々ながらも増加の一途を辿り一
九三三年度州内冷肉工場で屠殺
せるもの牛五十万八千頭、豚
二十二万二千頭、工場外の重な
る屠殺場牛三万六千頭、豚八千
頭に達し、此間積價格十六万四千
五百頭に比して約
二万五千コントの増加を見せて
ゐる
然るに各郡役所屠場において
はこれと異り前年度の牛二十
六万頭、價格八千五百コント
に對し三三年度は二十二万
四千頭六万九千コントにしか
達してゐない、たゞ冷肉工場
同工場外并に郡經營屠場にお
ける總計では二十三万四千
頭を述べて、幾年でその全貌をす
べて變化し面目一新して州經濟
に貢献するに至るであらう

が増大したゝものである。ノロエース特他の操作に於ては、本年度收穫に對する種子頒布數は未だ公表されないが、記録破りの多量に達したものと思はれ、従つて棉種は各地で受けてゐるものと察せられ、聖市に於ても精棉工場の産額は数年前までは尙幾々たるものだつたが、七八百萬キロに達してゐる。實棉が織線に拘らず從來生産帶域での作業とされた精棉業が聖市でも行はれる様になつた事實は聖市の重要な工場では精油製取をなすものがある爲めである。かくして州船泊は漸次顯著な發長

日本人のモツサ求す
Rua Joaquim Tavora, 80
シヤカラ
ワーリヨスの土地一万メートル五十平方メートル、良住宅付、百五十万円
は聖市住宅と交換應ず
Rita Dr. Dino Bueno, 44

GYMNASIO YPIRANGA
Rua Vergueiro, 360 e Domingos de Moraes, 76

廣發商船

分リベロン・ビ
絶好地、車道完全
レイルウェイ線驛
Tel. 7-0323
andar, 1063

黄
大量着荷、格安

o Hackradt & Cia.
3 - 2º andar -- Tel. 2-1991 -- S. Paulo

謹告!!!

弊商會肥料御買上げ
に對しては何品によ
らず總て五パー센
トの割引を致します

理髮職人二、三名

SANTOS
函詰
一一一八一六

助手入用

フエル NANDO

彼女へ捧へ

世はこれ戦術時代!!

歐米求婚廣告の



あの手この手

思ふ……

代歐米人の異性観や結婚觀等がよく紙背に浮び上つてゐる

思ふ……

次の求婚廣告は何れも最近の歐米諸新聞から採集したものだが、現

代歐米人の異性観や結婚觀等がよく紙背に浮び上つてゐる

思ふ……

題話の時

倫敦會商をめぐり 二すくみの日英米 微妙なその關係

會議の始まらぬ中から悲觀論の濃かつた倫敦豫備會商は今や休會となり雑する列國の海軍力關係とは一體どんなものであらうか、我が海軍問題の權威伊藤正徳氏の説に聽かう……

「先」

づ順序として日本と米國の間に横はる難關から始める、これは殆ど周知の事實だが、米國が五・五・三の比率原則を採用するに對し日本は主權と海軍パリチの原則を以て進んでゐることは、英國とも因縁がある。

日本以外の艦型縮小と巡洋艦數量

が國防自衛と海軍保護

委任統治國との通商關係に懸念

聯盟正式脱退の後に来るもの

外務省も対策講究

來る三月二十七日を期日とする
我が國の國際聯盟正式脱退は我國
と聯盟國との經濟關係にも何等
の影響を與へるものと豫想せられ
てゐるのは我國と委任統治國と
の通商關係である、近東、アフ
リカ、南太平洋に散在する各國
の委任統治國は日本商品によつ
ての新市場とされてゐるが、最近
日本商品の輸入抑制を企てるやう
になり、僅かに國際聯盟視約によ
つて日本聯盟加盟中は特權待遇を
得し得ず、従つて此らの委任統治國
はかかる場合の對策を自下切に
講究中である

日本商品に對する差別的待遇を
現して來ることは極めて多く、さきに
英國が西アフリカにおける自國商品を護
り日本商品を排斥せんがため日本
通商條約を廢棄した實例もある
ので、これら委任統治國が各受
任國政府の意旨により如何なる
措置を取るかも知らず

「東郷づくめ」
東郷小学校

記念式を行つたが
この日から二階に東郷室が設
けられ、新しい校旗に縫ひと
りする校名は東郷元帥の筆

で既に出来上り、「ふ士井晚翠
が校の名に」といふ士井晚翠

が校の名にと改稱した元上
作の新校歌も披露され、展覽
會場には兒童達の作品に色々
のものに改築するなど伊勢大
廟と曰いやがうへにも全國
はもつとも大きいと見られて
いる

意義ある大計畫が實現される
其得意氣に齊唱したのが「東
郷健兒の歌」といつた風だ
けである

川邊の職工君た
留置場が縮じなつた譯でも
二三度手を出したのが身のあ
るまいと不審に思つてると
やまり、留置場から歸宅して熟
考へ以後、必ず將棋をやめ
ての依頼、狐につまられたよう

部を賣拂つたのが金三圓六十錢
也の義金となつた

とあり、續いて同夜七時には
岩田さんお駆がせしてすみま
せんでした、あなたが余り温
和にしてしまひました、今後は私達みんな
心を入れて貴君をからかひ
らしの手紙が軒の暗に紛れて何
時間にか配達されてゐた、訴
へを受けた戸塚署でも「お轉婆
どもの悪戯らしいが實に徹底し
てゐるね」とこの田舎出の青年
もせん、私達も警察に留置さ
れは學校へ手紙を出して退學
でからかつてラガーラー十數
年もに改築するなど伊勢大
廟と曰いやがうへにも全國
はもつとも大きいと見られて
いる

とこの娘達の「火遊び」の最後
心を入れて貴君をからかひ
らしの手紙が軒の暗に紛れて何
時間にか配達されてゐた、訴
へを受けた戸塚署でも「お轉婆
どもの悪戯らしいが實に徹底し
てゐるね」とこの田舎出の青年
もせん、私達も警察に留置さ
れは學校へ手紙を出して退學
でからかつてラガーラー十數
年もに改築するなど伊勢大
廟と曰いやがうへにも全國
はもつとも大きいと見られて
いる

仁井介白

Faz. Tres Barras - Caixa, T. B.

JATAHY - Paraná

L. S. Paulo-Paraná E. de Paraná

全國を七地區に

防犯課の活躍

水も洩らさぬ警察陣

全般の盛況、その上兒童達が

貴負した記念文鏡には故元帥の

肖像が浮彫りしてあるし、

意義ある大計畫が實現されるわ

其得意氣に齊唱したのが「東

郷健兒の歌」といつた風だ

けである

この點大いに憂慮せられてゐる

警察署は計画し、計画の充實を計画し

議會の通過を待つて、内務省警保局ではそれに

開する豫算が大蔵省で承認され

たので、内務省警保局ではそれに

開する豫算が大蔵省で承認され

建國精神を發揚

盛大に舉行

榎原神宮の修築完成の年

日本品壓迫策をとるやう

百五十キロ 大電力放送

放送協會で着々準備

日本放送協會が懸案の、K百五
キロ大電力放送を昭和十一年

來年中完成する

大電力放送

日本放送協會が懸案の、K百五
キロ大電力放送を昭和十一年

Pó Estomacal "TAKA"

慢性胃腸病にタカ胃散

胃腸病程人知らず苦しむ病氣はない
腹何食ないといふ悩みは胃腸病

腹一杯食へといふ悩みは胃腸病

腹一杯食へといふ悩みは胃腸病

腹一杯食へといふ悩みは胃腸病

腹一杯食へといふ悩みは胃腸病

腹一杯食へといふ悩みは胃腸病

腹一杯食へといふ悩みは胃腸病

腹一杯食へといふ悩みは胃腸病

がつちり摑め、自己の信賴の置ける薬を!!

大河内藥化學研究所

胃腸病程人知らず苦しむ病氣はない
腹何食ないといふ悩みは胃腸病

腹一杯食へといふ悩みは胃腸病

腹一杯食へといふ悩みは胃腸病

腹一杯食へといふ悩みは胃腸病

腹一杯食へといふ悩みは胃腸病

腹一杯食へといふ悩みは胃腸病

腹一杯食へといふ悩みは胃腸病

腹一杯食へといふ悩みは胃腸病

建國精神を發揚

盛大に舉行

榎原神宮の修築完成の年

榎原神宮の修築完成の年

榎原神宮の修築完成の年

榎原神宮の修築完成の年

榎原神宮の修築完成の年

榎原神宮の修築完成の年

榎原神宮の修築完成の年

榎原神宮の修築完成の年

建國精神を發揚

件事ラバナワグ

悲惨な終結
耕地から強制放逐
露頭に迷ふ二十餘家族
既報北西線ルワサン
耕地外に退去放逐し次いで二十
五百四十一人の中五十二万八千
五投票は有権者總數五十三万九千
現狀維持を希望するもの
閏年(二十九〇七)

改選は有権者總數五十三万九千
五百四十一人の中五十二万八千
五投票は有権者總數五十三万九千
現狀維持を希望するもの
閏年(二十九〇七)

農地を賣却する者
も耕地では鐵砲その他の同人
家族を脅迫して食糧種子農具其
他一切強奪し強制的に向相手にせす廿餘家族の者は不
破る裏切者の警戒に當るなど

件事ラバナワグ

改選は有権者總數五十三万九千
五百四十一人の中五十二万八千
五投票は有権者總數五十三万九千
現狀維持を希望するもの
閏年(二十九〇七)

改選は有権者總數五十三万九千
五百四十一人の中五十二万八千
五投票は有権者總數五十三万九千
現狀維持を希望するもの
閏年(二十九〇七)

悲惨な終結

耕地から強制放逐
露頭に迷ふ二十餘家族
既報北西線ルワサン

改選は有権者總數五十三万九千
五百四十一人の中五十二万八千
五投票は有権者總數五十三万九千
現狀維持を希望するもの
閏年(二十九〇七)

件事ラバナワグ

耕地から強制放逐
露頭に迷ふ二十餘家族
既報北西線ルワサン

洲歐の問題解決

ザール遂に復歸

人民投票で壓倒的快捷

閏年(五三六八・八月)

佛國へ歸属を望むもの

二四六・八月

佛國へ歸属を望むもの</

NIPPAK SHIMBUN

Jornal Nipponico de maior circulação no Brasil

Anno XXI

São Paulo - Quarta-feira, 16 de Janeiro de 1935

Num. 918

Notícias e telegrammas do Nippon

(Serviço especial do NIPPAK SHIMBUN e dos Jornais)

A situação política do Imperio Nipponico

O gabinete do Imperio estuda, actualmente, a situação parlamentar em face da approximação da reabertura da sessão ordinaria da Dieta a 27 do corrente. O primeiro ministro Okada visitará provavelmente srs. Suzuki, presidente do partido Seiyukai; Iachida, presidente do partido Minseito; e Adachi, presidente do Kokumin, afim de colaborar com os mesmos nas medidas a tomar.

Uma das questões que se apresentam é a do imposto sobre a renda julgado muito elevado. Se o partido Seiyukai conservar a atitude mantida na ultima sessão, o governo talvez tenha que dissolver a Dieta.

Em certos círculos militares de Tokio deseja-se vivamente a dissolução, afim de, segundo dizem - "infundir ar fresco na política".

Estação de repouso do Imperador Hirohito

Annuncia-se que o Imperador Hirohito já restabeleceu de um resfriado que o atacara, demorar-se-á em Hayama até 20 deste mês, onde se encontra em estação de repouso.

NIPPAK SHIMBUN

Diretor-Proprietário:

SACK MIURA

Redação, Administração e Oficinas
Rua da Liberdade, 144-A e 146

Caixa Postal, 375

Telephone 2-3926

Endereço Telegráfico: "Nippak"

SÃO PAULO - Brasil

ASSINATURAS

Para o Brasil

Por anno 305.000

Por semestre 16.000

Número avulso \$500

Para o Exterior

Por anno 60.000

ANNÚNCIOS

Temos à disposição dos interessados uma tabela completa de preços para anúncios nesta folha. Telephone 2-3926

Declarações do consul nipponico em Nankin

Falando sobre a situação no Extremo Oriente, o sr. Sumia, consul geral do Japão em Nankin, declarou, segundo informam os telegrammas, que "um entendimento real entre a China e o Japão, e, consequentemente, a paz no Extremo Oriente, não podem ser obtido enquanto dominar, na China, a influencia europeia e americana."

Terminou congratulando-se com o governo chinês por ter compreendido melhor os pedidos legítimos do Nippon.

Os meios chinezes de Shanghai e Nankin, devido as intenções atribuídas ao ministro do Nippon com a sua visita em fins de Dezembro ao ministro do Exterior da China, emprestam grande importância às declarações do consul Sumia.

Condecoração ao dr. Adatchi

Informam os telegrammas que o Imperador Nipponico conferiu, a título postumo, o grande Cordão da Ordem Imperial do Sol Levante, com flores de Paulownia, ao dr. Adatchi, ex-presidente da Corte Permanente de Justiça Internacional, recentemente falecido em Haya.

O Exercito do tempo de paz, que é muito diferente do tempo de guerra, comprehende 17 divisões, tendo approximadamente 230 mil homens incluindo os oficiais. Um exercito em tempo de guerra, depende grandemente do tempo de paz. Comparado com os Exercitos estrangeiros, o Exercito Japonez em tempo de paz, não se pôde afirmar que seja muito grande. Pôde-se mesmo dizer que tem muita carga a supportar, uma vez que consideremos que o Japão se sente na necessidade de olhar pela defesa do novo Estado independente de "Mandchu-Koku", e também pela situação do Estados vizinhos da Russia e da China.

Com tudo, o seu Exercito é pobramente equipado, uma vez que o comparemos com os Exercitos Europeus ou americanos, visto como o Imperio estava ligado das escenas de batalhas da Grande Guerra.

Assim, o Exercito tem procurado u'a melhoria de equipamento que effectua com dois ajustamentos no sistema, incompletos aliás, devido ás despesas. Mas as successivas occurrences da Mandchuria e Shanghai, e a formação do Mandchu Koku occasionaram a necessidade da melhoria do equipamento e o composito do Exercito Japonez no mais limitado espaço de tempo possível. D'ahi, concordar-se com um orçamento colossal para o Exercito, de mais de 447.800.000 yens para o periodo de 1933-34. O que equivale a dizer um aumento de 252.500.000 de yens em referencia ao anno precedente, posto que que contesta a despesa incidental com a Mandchuria. Este aumento é para ser expendido com o equipamento e manutenção das tropas na Mandchuria, reforma da organização e suplemento de armas.

A inferioridade em equipamento do Exercito Japonez é multissimo evidente em novas muñições como canhões anti-aéreos, tanks, aparelhos químicos, etc. Por exemplo, enquanto o Japão tem sómente 60 canhões anti-aéreos, os Estados Unidos têm 200, além de 5.000 metralhadoras anti-aéreas, a Itália tem 140. O Japão tem 60 "tanks", enquanto a Rússia tem 1.500, a Grã-Bretanha 200, a França 1.500 e a Itália 120. Nas armas químicas, o Japão é o mais pobre. Mas elle tem excelente liderança, habilidade em manejá as armas e completo treino militar para compensar a sua deficiencia. Nada ha que possa distinguir u'a manobra militar do Exercito Japonez de uma verdadeira batalha.

Violento incêndio

Na noite de 13 do corrente rompeu um violento incêndio na cidade de Sakai qual destruiu uma terça parte dos predios.

As ultimas notícias informam que mais de 500 casas foram destruidas ficando sem abrigo centenas de pessoas.

O Imperador do Mandchu-Koku em visita ao Imperio

Está sendo oficialmente anunciada a visita do Imperador Pu-Yi, do Mandchu-Koku, ao Nippon, em princípios de Abril proximo, afim de retribuir a visita que lhe fez, em Junho passado, o príncipe Chichibu.

Navio hespanhol em Yokohama

Pela primeira vez depois de cinco annos uma unidade hespanhola visita o Nippon. Trata-se do navio escola "Juan Sebastian Eleano" que acaba de entrar no porto de Yokohama todo coberto de neve trazendo á bordo 28 cadetes hespanhóes em visita de instrução.

Viagens de estudos de um professor nipponico

Em missão de estudos pelos diversos paizes da America do Sul, encontra-se no Brasil há cerca de treze meses o dr. Denichi Ishii, professor de grande projeção no Nippon, e presidente da Associação Imperial dos Escoteiros Infantis.

O dr. Denichi Ishii prosseguirá em suas visitas escolares pelo litorâo paulista, devendo depois embarcar para a Argentina, visitando também outros paizes da América do Sul.

O nosso visitante declarou que regressando ao Nippon providenciaria, junto ás autoridades do seu paiz, para serem convidados os professores de S. Paulo para conhecer "do visu" as organizações escolares nipponicas.

Feira internacional de Yokohama

A bordo do paqueie japonês "Manila Maru" seguiram a 10 do corrente os volumes de mostruários de produtos nacionais que se destinam á Feira Internacional de Yokohama. Esse certame que durará 60 dias será inaugurado a 26 de Março proximo.

SPORTS

O sportman Kan-ichi Hanai visitará o Brasil

Entre os principais clubs de futebol da Republica Argentina figura o Boca Juniors Futebol Club, campeão de 1934, e que possui um dos mais potentes teams do mundo.

Esse magnifico conjunto de atletas boquense já embarcou com destino á nossa capital onde enfrentará os melhores quadros brasileiros de futebol, entre elles o Corinhians Paulista, Palestra Italia e o Club de Regatas Vasco da Gama, do Rio de Janeiro.

Esse famoso team argelino que em breve estará entre nós, tem em seu seio o distinco sportman Kan-ichi Hanai, treinador que vem prestando os seus serviços ao Boca Juniors desde 1925. Sua actuação consciente, seu espírito leal sua alegria c'optimismo que traduz em seu esfavel sorriso jato ez, tem contribuido imensamente para o exito do boquenses, sendo o japonenzinho a mascote do team e, como tal, querido de todos os seus componentes a quem levou, no anno p. p. ao título maximo do futebol argentino. Hanai faz parte do onze que em breve nos visitará.

Nippak F. C. vs. Diarios Associados

Desfrutarão domingo ultimo no campo da Portugueza de Esportes as valentes equipes do "Juvenil Nippak F. C." e "Diarios Associados", tendo saldo vencedores os valentes rapazes do Nippak pela contagem de 4 a 3.

A pugna que decorreu com a maior cordialidade entre os dois quadros ofereceu magnificos apeclos onde brillaram as intelligentes jogadas dos componentes do nosso quadro.

O algodão

Em nosso numero passado fizemos ver aos lavradores que todo o cuidado é pouco para obter um bom producto; que devem ser extinguidas todas as classes de parasitas que prejudicam grandemente a qualidade e a quantidade do algodão entre elas o "alfineiro".

O volume do algodão paulista classificado na presente safra passou de 100 milhões de Kilos. Na base dos preços actuais a producção algodeira do Estado, tecnicamente classificada, isto é, em nume os precisos 627.978 fardos, representa cerca de 350.000 contos na economia do Estado paulista.

Uma publicação ingleza do "Board of Trade" accusa o valor de £ 3.328.331 para a importação do algodão brasiliero nos oito primeiros meses do anno p. p. ao passo que as cifras correspondentes ao anno retrazido era apenas de £. 131.620.

ABRIR ESCOLAS!

Um problema que preocupa seriamente os estadistas de todos os paizes é o da Instrução.

A nova Carta Magna, feito, consagraram principios de esplendida oportunidade, obrigando os Estados a gastar 20 % de suas rendas e a União e os Municípios 10 %, no desenvolvimento dos sistemas educativos. Os municípios paulistas, por exemplo, despendiam 4 mil e poucos contos. Vão gastar, já, neste anno, cerca de dez mil. O Estado, por sua vez, elevou a dotação da Secretaria da Educação de 80 mil para 132 mil contos, para attender ás exigencias da Constituição.

Hontem, escrevia, para um de nossos matutinos, o sr. Mario Pinto Serva, mostrando a situação do Brasil em face de outros paizes. O Ca-

Impressos?

Procure a

TYP. "NIPPAK"

Rua Liberdade, 146

São Paulo --

Epidemia em Yokohama

No decorrer da setima semana morreram cento e sete crianças, em Yokohama, vicinas da dysenteria, enquanto quinhentas soffrem a terrible molestia.

As autoridades consideram dominada a epidemia e atribuem o mal á agua fornecida á população, que é procedente de Kawasaki.

(da "Folha da Manhã")

deslocando mais de 80.000 toneladas e não menos poderosos do que os encouraçados Americanos e ingleses nas operações de defesa e de ataque.

AVIAÇÃO

As forças aereas do Japão estão organizadas em unidades da Marinha e unidades do Exercito.

O uso da aviação nos serviços militares e navares é um facto recente no Japão e o desenvolvimento da sua aviação civil, tambem, se acha aquem d'aquelle dos Países Ocidentaes. Mas o desenvolvimento forá do commun da aviação em todo o mundo fez com que o Japão observasse o immenso valor dos aeroplanos na guerra, com o resultado de que o Imperio pôde agora, construir todos os aparelhos para os serviços militares e navares no Paiz, e tales aparelhos feitos lá, pôdem ser comparados favoravelmente em execução com os melhores do mundo.

O Japão, contudo, soffre um grande empecilho que é o facto da sua limitada aviação civil.

A força aerea do exercito é de 8 regimentos de voadores e 1 corpo de 800 aeroplanos inclusive os da reserva immediata.

O serviço aereo da Marinha, dispõe de 17 esquadriões de patrulhas da costa, um esquadrião para aerostato, e um esquadrião para dirigíveis e terá um addicional de 12 esquadriões em 1937.

As machineas ao serviço da Marinha, attingem a mais de 470 aeroplanos e além de 320 aeroplanos disseminados sobre os transporta-aeroplanos, encouraçados, cruzadores de batalha, e cruzadores leves.

Os dirigíveis estão sendo estudados pela Marinha Japoneza, que, contudo, considerando a execução e a despesa, está mais interessada nos grandes hidroplanos.

Tales hidroplanos como os de tipo 901 e 902 são superiores em execução. Os aeroplanos do Exercito são divididos em aeroplanos de batalha, de reconhecimento, e lanças bombas pesadas e leves: e os aeroplanos da Marinha comprehendem os da batalha, de ataque, de reconhecimento, de lanças-torpedos e os de bombardeio.

Um importante factor que milita á favor da Força Aerea Japoneza é a sua superioridade nas operações de guerra. Um corpo de batalha se acha ligado, para fins de observação, ao Exercito e um outro á Marinha, mas não se lhes atribue muito valor.

A importancia vital dos aeroplanos atrai a atenção nacional através de suas actividades nessas casas da Mandchuria e Shanghai.